



2021年4月26日発行

座光寺石原遺跡 発掘だより

第3号

■ 2021年度 発掘調査のはじまり、はじまり

今年度は担当者が大きく変わり、班長に若林卓飯田支所課長補佐を迎えて、伊藤愛、平林彰の3名で、発掘作業を行っていきます。

若林課長補佐は、三遠南信自動車道関連の遺跡調査以来、佐久方面の中部横断自動車道の発掘調査や東日本大震災の復興事業に伴う派遣業務を経て、15年ぶりに飯田にやってきました。伊藤調査研究員は、昨年度喬木村おくまんのん遺跡の調査後、しばらく埋文センターを離れていましたが、このたび正規職員として着任し、心機一転張り切っています。平林調査指導員は、飯田市内での発掘調査は初めてです。皆さんの足手まといにならないよう気をつけますので、どうぞ、よろしくをお願いします。

■ 調査のおさらい

昨年度は1区西、2区、10区(下図の灰色部分)の発掘作業を行いました。1区からは古墳時代の竪穴状遺構と平安時代の土坑など、10区では時期不明の竪穴状遺構や集石炉、焼土跡などを検出しましたが、2区は土曾川の氾濫原で遺構は確認できませんでした。

1区の竪穴状遺構(SB02)は隅丸長方形で、大きさは約2.6m×4.8m以上でした。遺構からは、土師器の高坏(たかつき)や須恵器甕(かめ)・横瓶(よこべ)などの遺物がまとまって出土しています。



1区出土の勾玉

この地区の北側には、石原田古墳が埋蔵されているという指摘があります。昨年度の発掘では、表土下の黒褐色土層から、馬の装飾に使う辻金具、鉄鏃(てつそく)、耳環(みみわ、じかん)、勾玉(まがたま)、小玉、ガラス玉など、古墳に副葬されることの多い遺物が出土しました。かつての古墳から流入したのではないかと推測しています。



■ これからの調査予定

今年度の上半期は、9区、11区の東半分、12区および13区(下図の黄色部分)の発掘を計画しています。

9区内には石原古墳、11区の南には石原3号古墳、そして13区内のナジギリ3号古墳と北隣の同2号古墳など、7世紀から8世紀にかけての終末期古墳が存在しているといえます。また、現地表面では確認できない古墳が埋蔵されている可能性もあります。したがって、まずはトレンチ(試掘溝)を掘削して古墳の有無を確かめ、古墳が確認された場合は、その部分を広げて本格的な調査を行っていかうと考えています。また、11区の東側には、昨年度の調査で検出した集石炉などが広がっているかもしれません。

下半期は1区の東半分、3~6区、そして正泉寺遺跡の確認調査へと展開していきます。1区の東側では、古墳時代や平安時代の遺構の分布を確認していきたいと考えています。



13区から遺跡の東方をのぞむ

■ みなさんへのお願い

発掘調査で大きな成果を挙げるには、まず、みなさんの安全が図られなければなりません。例年、通勤時の交通安全、作業中のケガ防止、暑熱対策などをお願いしているところですが、いまだ新型コロナウイルスの流行が収まらないなかでの作業になります。そこで、作業中の安全管理に関する班長の指示に従うことはもちろん、以下の三つのお願いをいたしますので、ご協力をお願いします

- 1 朝起きて、体調がすぐれない時は、遠慮なく欠勤してください。
 - 2 歩行者信号が点滅していたら、アクセルから足を離しましょう。
 - 3 作業はできるだけ二人以上で声を掛け合いながら行ってください。
- 元気で活力のある現場には、埋蔵文化財の神様からのプレゼントがあるはず。11月までの長丁場ですが、成果を期待してガンバリましょう。



座光寺石原遺跡発掘だより 第3号
 長野県埋蔵文化財センター 飯田支所
 飯田支所：0265-49-0736
 info@naganomaibun.or.jp
 発掘現場：090-1504-0361
 HP：<http://naganomaibun.or.jp/>
 (担当：若林卓・伊藤愛・平林彰)